

春の火災予防運動

3月1日(水)～7日(火)

空気が乾燥し火災が起こりやすい時季です。
一人一人が火災予防を心掛け、尊い生命や大切な財産を火災から守りましょう。

問 消防課 予防班 ☎046(285)3131

消防団員が、火災予防を呼びかけ

春の火災予防運動期間中に消防団員が管轄エリアを巡回し、広報活動を行います。



住宅用火災警報器は10年を目安に交換を！

ボタンを押す、またはひもを引いて作動確認をします。

正常な場合は？

正常をお知らせするメッセージまたは火災警報音が鳴ります



音が鳴らない場合は？

電池がきちんとセットされているか、ご確認ください



それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。

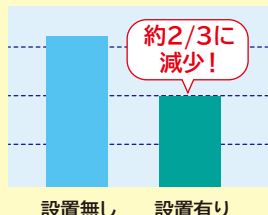
注)警報音はメーカーや製品により異なります

出典：一般社団法人日本火災報知機工業会ホームページ

住宅用火災警報器の効果

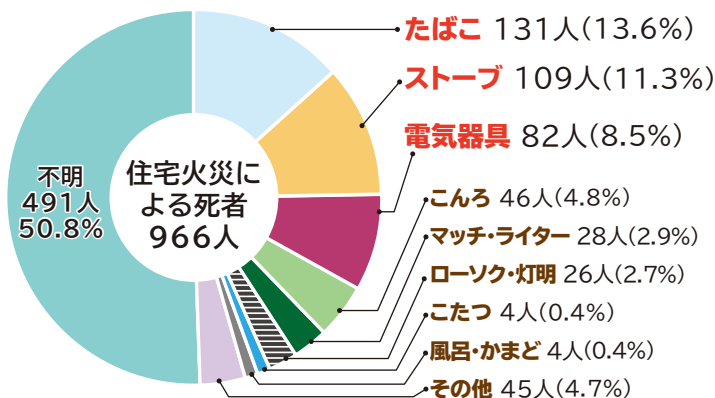


設置していない場合に比べて、住宅用火災警報器を設置している場合は、死者の発生が約3分の2に減少しています。



住宅用火災警報器の設置は義務化されています！
設置されていない方は早急に設置しましょう。

全国の火元別死者発生状況(令和3年)



出典：政府広報オンライン

火元は「たばこ」「ストーブ」「電気器具」

令和3年に全国で起きた住宅火災で亡くなった人は966人(放火自殺者などを除く)。主な火元は、「たばこ」「ストーブ」「電気器具」です。火災の多くが、これらの火元から布製品などに移り燃え広がることで発生しています。

亡くなった理由の半数が「逃げ遅れ」

亡くなった966人のうち、約74%に当たる716人が65歳以上の高齢者です。また、病気や体が不自由なため、あるいは熟睡していたための「逃げ遅れ」が全体の約半数を占めています。

住宅火災に多い火災原因

住宅火災の原因を知り、火災を防ぐコツを覚えましょう！

こんろ火災

こんろに火をつけたままその場を離れて火災に

こんろから離れるときは必ず火を消すこと。

たばこ火災

たばこの火種が消えたか確認しなかったため火災に

外出前や就寝前に火種が消えたことを確認すること。灰皿には水を入れる。

ストーブ火災

ストーブの前に衣類を置いて火災に。

ストーブの周りには衣類や燃えやすい物を置かない。

電気器具類の火災

束ねた電気コードやたこ足配線で火災に

コードを束ねない、テーブルタップは定格電力内で使用すること。

ローソク・灯明の火災

誰もいない部屋でローソクの火をつけたままにして火災に

ローソクや線香は火をつけたままにしないで、拜んだ後は必ず消しておく。

放火による火災

夜中に出したゴミに放火されて火災に

ごみは決められた曜日、時間に出す。ごみを出しっぱなしにしない。